

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4 年 4 月 14 日

事業所名 ブロッサムジュニア上越春日山教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	66%	33%		日によって適切なスペースが確 保されていないと感じることがあ る。	活動によりスペースが確保できる よう心がけていきます。
	2	職員の配置数は適切である	33%		66%	適切な職員配置ができていない ことも多く、ご利用者様に十分な サービスを行うには厳しいと感じ る。	今年度は職員の不足を感じるこ とがいろいろなタイミングであつた が、来年度は新しい職員が加わ るため改善されると思います。 又、職員同士声を掛け合ったり、 配置場所や活動内容を工夫し全 体の動きを見ながらご利用者様 に目が行き届くようにしていま す。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	33%	66%		段差はあるが必要な方にはその 都度対応している。 至らない可能性がある部分につ いては事前にご家族や支援チー ムに承諾を得ている。特におむつ 替えのや車いすで移動できない などの点	これからも仏幼な場合には適切 に対応していきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画してい る	33%	66%		シフトの関係もあり散発的で細か いところまでできているとはいえ ない面がある。	定期的に振り返りを行い意識を 高めていきます。 又、シフトの関係で参加できない 職員がいる場合には内容が伝え られるよう記録を細かくとってい ます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	100%				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	100%				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	33%		66%	療育だけでなく幅広い面で外部 機関による客観的な評価は必要 だと思う。	よりよい業務のために第三者委 員会から評価してもらい、改善 を図っていきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	100%				
適切 な支 援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するた めに、標準化されたアセスメントツールを使用 している	66%	33%		事業所の性質上積極的に標準化 されたアセスメントツールを使用 する必要性は高くないと感じて いる。 WISC等外部機関で行ったものに	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	100%			季節の活動を意識的に取り入れ 研修で得たものを生かしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	100%			個別の部屋を活用しながらご利 用者様に合った配慮をしていると 思う。 個別という活動をするを子供 たちが意識できるようにスモール ステップで進め工夫してきた。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	100%				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担につ いて確認している	100%			その日の流れの確認を必ず行っ ている。その際に個別はどう行 うかなど細かい流れも確認しあ っている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			日々の振り返りを行いながら記録を記入している。自分を感じなかった事や見ていない成長やご利用者様の動きについても共有して次につなげるようにしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			利用者の姿だけでなくどのように支援したのか具体的に記入しほかの職員が見てもわかるように意識して記録している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100%				
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%			情報の共有は学校によってばらつきがあると感じている。学校の行事等で時間割の変更があったことを忘れていたことがあったので予定の確認をしっかりと行っていくようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子供の主治医等と連絡体制を整えている	33%		66%	相談員を介してのやり取りがメインで医療機関との会議が少なく直接的なコミュニケーションは難しい。相談員との連携をより大切にしている。	必要が生じた場合にその都度対応できるよう今後も相談員との連携を密に取り、療育を行います。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%				
	26	地域施設との交流や障害のない子供と活動する機会がある	66%	33%		コロナ禍で難しいと感じているができるだけ地域参加して交流が持てるように意識してきた。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		100%		コロナ禍で難しいと感じている。	新型コロナウイルス感染症が落ち着いて参加できる社会状況になればぜひ参加していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		33%	66%	放課後等デイサービスの保護者様については求める保護者様が少なく感じている。又、コロナ禍で難しい面があったり職員のスキルや人数的になかなか実施ができない。	スキルを高めていくために研修を行っています。職員間で話し合い、統一感をもって相談に乗り、保護者様に寄り添うようにしていきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			件数は配布している手紙で知らせています。 又、苦情があった時は態勢を整え再発防止に努めています。 保護者様へも丁寧に対応しています。	
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%				
	34	個人情報に十分注意している	100%				
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
非常時等の対応	36	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	66%	33%		地震での把握と確認ができていなかったので確認したい。 作ってそのままになっていたり、教室に適していない部分や十分でない部分があると思う。	職員間で作成されているマニュアルを再度確認し、訓練を行っています。 又、保護者様への周知も徹底していきます。
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	33%		66%	訓練が行われていないため実施するために行動に移していく必要がある。 ご利用者様には紙芝居などで意識を高めてもらう。	年2回訓練を行っていく予定です。 訓練だけでなく、いろいろな方法を用いて災害への意識を高めていけるように心がけていきます。
	38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			ブロッサムの本部に研修を行ってもらい参考にしている。意識して関わるいいきっかけになった。	
	39	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%			身体拘束があった場合はすぐにその様子と状況を保護者様に伝えるようにしている。 又、身体拘束をやむを得ずしなければならない動きのあるお子様と保護者様には前もって承諾を得ている。支援記録にも必要があればと行くかたちで記入している。	
	40	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%				
	41	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			支援記録とは別に記録に残している。	